

中学校国語教科書の接続詞使用に関する一考察 —学校外で出会う様々なテキストとの比較から—

林 愛美

1. 研究の目的

本論文は、接続語の使用について、中学校の国語教科書教材とその他のテキストを比べることで、教科書教材に使用されている接続語の傾向を見出す。そして、国語科教育の学習指導上の一つの参考材料を提示することを目指す。

2. 各調査の結果

ここでは、平成 23 年度版中学校国語教科書（光村図書）を対象として行った接続語の悉皆調査、及び、コーパス¹調査の目的、方法、対象、そして結果について述べる。なお、今回使用したコーパスは国立国語研究所・情報通信研究所作成の「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ:Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese）」である。

2-1. 平成 23 年度版中学校国語教科書（光村図書）悉皆調査

2-1-1. 調査の目的

本調査は中学校国語教科書に使用される接続語の割合と内訳を調査するものである。

2-1-2. 調査の方法と対象

本調査では、光村国語教科書の中で「接続語」として扱われているもののうち、句読点のあとに続き、かつ市川(1978)に掲載されているものを対象とする。したがって次のような活用語に後続するものは対象としない。

- (1) 寒かったので、セーターを着た。
- (2) 彼のがんばりは認めたいが、今回の件は擁護できない。

2-1-3. 結果と考察

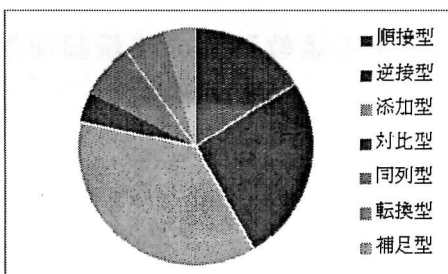
中学校国語教科書（光村図書）における接続語について悉皆調査を行ったところ、以下のような結果となった。

¹ 日本語をはじめとする言語を分析するための基礎資料として、書き言葉や話し言葉の資料を体系的に収集し、研究用の情報を付加したものを言語コーパス（language corpus）と呼ぶ。

表1 接続型分類別結果

分類	出現数	割合
順接型	135	16.1
逆接型	215	25.6
添加型	308	36.7
対比型	35	4.2
同列型	63	7.5
転換型	48	5.7
補足型	36	4.3

グラフ1 接続型分類結果



結果を見てわかる通り、添加型が36.7%で最も多く、次いで逆接型25.6%、順接型16.1%、同列型7.5%、転換型5.7%、補足型4.3%、対比型4.2%となった。また、教材の分類ごとの接続詞の出現は表2に示す。また出現した接続語と出現数は表3のような結果となった。

表2 教材の分類別接続語出現数

教材	順接	逆接	添加	対比	同列	転換	補足	総計	割合
記録	2	2	5	0	0	0	2	11	1.3
古典・解説	0	0	1	0	1	0	0	2	0.2
古文	1	2	8	3	1	0	1	16	1.9
詩	0	1	0	0	0	0	0	1	0.1
小説	53	73	101	3	5	11	9	255	30.4
随筆	9	32	24	1	8	4	2	80	9.5
説明	23	21	22	10	12	8	5	101	12.0
評論	9	7	6	2	1	0	2	27	3.2
物語	6	17	16	4	1	1	0	45	5.4
論説	8	21	13	2	8	5	1	58	6.9
その他	16	26	97	8	15	17	13	192	22.9
詩・解説	1	1	3	0	1	0	0	6	0.7
言葉	2	4	1	0	2	0	1	10	1.2
読書活動	1	0	3	0	0	0	0	4	0.5
古文・解説	0	0	0	1	0	0	0	1	0.1
漢文	1	0	1	0	0	0	0	2	0.2
短歌・解説	0	0	2	0	1	1	0	4	0.5
情報	2	2	3	1	3	1	0	12	1.4
漢詩・解説	1	1	1	0	1	0	0	4	0.5
俳句・解	0	0	0	0	2	0	0	2	0.2

説									
論説の比較	0	5	1	0	1	0	0	7	0.8
総計	135	215	308	35	63	48	36	840	

表 3 中学校国語教科書接続語悉皆調査結果

また	122
しかし	99
そして	87
それから	34
例えば	32
ところが	31
でも	30
そこで	30
だから	30
すると	26
つまり	23
さらに	21
では	21
だが	21
ただ	15
いっぽう	11
それに	11
けれども	11
そのため	11
そうして	10
ただし	9
あるいは	8
それで	8
それでも	8
さて	7
しかも	6
ところで	6
なお	6
そのうえ	6
それでは	5
じゃあ	5
それも	4
それとも	4
だからこそ	4
それどころか	4

が	4
そうしたら	3
まして	3
なぜなら	3
それにしても	3
または	3
それなのに	3
その結果	3
結局	2
したがって	2
こうして	2
で	2
逆に	2
そうすると	2
けれど	2
だって	2
特に	2
そうかといって	1
事実	1
だとしたら	1
ですから	1
だけど	1
でなきゃ	1
ましてや	1
そしたら	1
ちなみに	1
それじゃ	1
実際	1
対して	1
すなわち	1
それなら	1
要するに	1
しかるに	1
さあて	1
それだから	1
やがて	1
とするならば	1
このため	1
とすれば	1
次に	1
とはいうものの	1
他方	1

とはいえ	1
とはいっても	1
というのは	1
というより	1
だったら	1
だがな	1
総計	840

2-2. コーパスによる接続詞の調査

2-2-1. 調査の目的

本調査では、世間一般に読まれている出版物にどのような接続語がどのくらい使われているのか、コーパスを使ってその数値で比較することを目的とする。

2-2-2. 調査の方法と対象

コーパスによる調査では、その対象を出版・書籍に限定し、市川(1978)の分類表に記載されている接続語で、句読点に後続するものの出現を調べた。

2-2-3. 調査の結果

調査結果は以下のとおりである。表の左から順に、出現した接続語、句点に後続した数、読点に後続した数、その合計となっている。

表4 コーパスにおける接続語調査結果(一部省略)

接続語	句点	読点	合計
あるいは	2212	3107	5319
いっぽう	1027	145	1172
が	941	16	957
けれど	926	54	980
けれども	5	24	29
こうして	801	357	1158
このため	562	59	621
さあて	5	4	9
さて	281	87	368
さらに	2672	912	3584
しかし	15481	933	16414
しかも	1798	1271	3069
しかるに	54	1	55
したがって	5908	882	6790
じゃあ	169	102	271
すると	3931	10	3941

そうかといって	12	8	20
そうしたら	140	22	162
そうして	351	138	489
そうすると	351	48	399
そこで	3456	996	4452
そしたら	145	19	164
そして	10940	4164	15104
そのうえ	162	74	236
そのため	695	25	720
その結果	840	163	1003
それから	1383	1041	2424
それじゃ	147	42	189
それだから	17	19	36
それで	2893	518	3411
それでは	789	179	968
それでも	1054	932	1986
それどころか	2	60	62
それとも	1062	1676	2738
それなのに	260	20	280
それなら	3	107	110
それに	2058	0	2058
それにしても	221	104	325
それも	128	32	160
だが	53	320	373
だがな	2	3	5
だから	3953	542	4495
だからこそ	295	71	366
だけど	410	35	445
ただ	2267	204	2471
ただし	2454	44	2498
だったら	103	30	133
だって	379	60	439
だとしたら	29	5	34
ちなみに	506	6	512
つまり	3624	1835	5459
で	455	0	455
ですから	774	13	787
でなきや	8	2	10
では	511	146	657
でも	4239	527	4766
というのは	332	116	448
というより	74	71	145
ところが	2073	10	2083

ところで	268	12	280
とするならば	9	0	9
とすれば	81	11	92
とはいうものの	47	0	47
とはいえ	282	10	292
とはいっても	35	3	38
なお	1590	196	1786
なぜなら	886	21	907
まして	175	80	255
ましてや	119	72	191
また	10556	5583	16139
または	78	1143	1221
やがて	501	1152	1653
逆に	502	74	576
結局	515	924	1439
事実	203	20	223
実際	426	68	494
他方	133	146	279
要するに	329	161	490
例えば	3599	1541	5140
もしくは	222	25	247
しかるに	35	43	78
よって	25	200	225
むしろ	900	602	1502
そもそも	340	327	667
及び	0	634	634
おまけに	176	85	261
ならびに	0	71	71

3. コーパスとの比較から捉える国語教科書における接続語

本章では、国語教科書とコーパスそれぞれの調査から得られた結果を比較して、教科書の接続語の使用実態について考察する。

3-1. 国語教科書とコーパスとの比較

今回の調査では、両者ともに非常に多くのデータを得ることができた。本節では、それらの上位 20 位までのデータを中心に比較していく。両者の上位 20 位までを比較すると以下ようになった。

表 5 教科書上位 20 位

順位	接続語	データ数	割合
1	また	122	18.0
2	しかし	99	14.6

3	そして	87	12.9
4	それから	34	5.0
5	例えば	32	4.7
6	ところが	31	4.6
7	でも	30	4.4
7	そこで	30	4.4
7	だから	30	4.4
10	すると	26	3.8
11	つまり	23	3.4
12	さらに	21	3.1
12	では	21	3.1
12	だが	21	3.1
15	ただ	15	2.2
16	いっぽう	11	1.6
16	それに	11	1.6
16	けれども	11	1.6
16	そのため	11	1.6
20	そうして	10	1.5

表6 コーパス上位20位

順位	接続語	データ数	割合
1	しかし	16414	14.6
2	また	16139	14.4
3	そして	15104	13.5
4	したがって	6790	6.1
5	つまり	5459	4.9
6	例えば	5140	4.6
7	でも	4766	4.2
8	だから	4495	4.0
9	そこで	4452	4.0
10	すると	3941	3.5
11	あるいは	3725	3.3
12	さらに	3584	3.2
13	それで	3411	3.0
14	しかも	3069	2.7
15	すなわち	2923	2.6
16	それとも	2738	2.4
17	特に	2686	2.4
18	ただし	2498	2.2
19	ただ	2471	2.2

20	それから	2424	2.2
----	------	------	-----

1位～3位までの結果は、「しかし」「また」「そして」と、両者ともに順位こそ違えど頻出であることがわかった。教科書で1位(18.0%)の「また」が、出現率としては他に比べて抜きん出ているようであるが、これは教材の分類で筆者が「その他」とした箇所によく見られたためである。「その他」とは、読解教材ではない、その他の言語活動に関する部分のことで、(3)や(4)のような文で使用されている(下線林)。次節では、教科書で4位の「それから」や、6位の「ところが」やコーパスで4位の「したがって」など、気になるいくつかの点について考察する。

(3) 自分たちの発表を通して、また、友達の発表を聞いて、どのようなことに気づいたのだろうか。

(「言葉を探検する」光村図書『国語2』, p211)

(4) 方言は、家族や地域の人の交流の中で自然と身につく言葉である。また、地域の風土や生活に根ざした独特の表現も多い。

(「方言と共通語」光村図書『国語2』, p205)

3-2. 接続語から見る国語教科書の特徴に関する考察

ここでは、国語教科書とコーパスの比較によって見られた接続語出現に関する特徴について考察していく。

3-2-1. 添加型の接続詞「それから」

国語教科書では4位(5.0%)であった「それから」は、コーパスによる調査では20位(2.1%)であった。添加型の接続詞は最も多く、「また」「そして」「さらに」「それに」など多数の接続詞が本調査でも認められている。しかし厳密に言うと、市川(1978)では、「そして」は添加型の「累加」に属するとされている。接続語はこのように同分類に属していても、それぞれの持つ機能は少しずつ異なっている。

森田(1989)²は「そして」は事柄の累加意識であるから、事柄の二重性が強まるのに対して、「それから」は行為の順次性が強まることを述べている。森田によれば、「それに、そのうえ」は、ある事柄に他の事柄が累加する意であるから、「それから」に置き換えることも可能であるが、「それから」は時間的順序で展開していく場合にも使用できる。このことから、「それから」は「それに、そのうえ」に比べて用途が広く、また「そして」に比べて文脈中で順序を意識する際に使用されるようである。以下のような場合、「そして」に置き換えると、不自然な印象を受ける。

(5) 東京の上野駅から近くの町の駅までは、夜行でおよそ八時間かかる。{それから/??そして}バスに乗り換えて、村にいちばん近い停留所まで一時間かかる。

(三浦哲郎『盆土産』/光村図書『国語2』, p99)

(6) すばらしい絵の前に立つと、理屈ではなく、まず衝撃がやって

² 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店、を参照した。

来る。{それから/??そして}、じっくりと分析する。分析もまた、名画を味わう楽しみの一つである。

(布施英利『君は「最後の晩餐」を知っているか』/光村図書『国語2』, p126)

(5)、(6)における前後の文の関係は、単なる累加の関係ではなく、時間的に順序だてているものである。一方、次のような場合はどうだろうか。

(7) ゼブラは机に向かうと、そのヘリコプターの外の空間をじっと見つめた。{そして/それから}ヘリコプターのスケッチを仕上げると、次の授業に持っていった。

(ハイム・ポトク著/金原瑞人訳『ゼブラ』/光村図書『国語2』, p274)

この文中の「そして」は時間的順序を表しているが、単に「そのヘリコプターの外の空間をじっと見つめ」た後、「ヘリコプターのスケッチを仕上げ」、「次の授業に持っていった」ことを順序だてて述べているのではないだろう。それまでうまくデッサンすることができなかった主人公が、先生から描こうとするものの「外の空間を見」ることを教わり、描こうとする「そのヘリコプターの外の空間をじっと見つめ」た上で、「次の授業に持っていった」のである。「そして」のそのような機能について、楊・馬場(2004)³は「「それから」は行為の順次性を強調するのに対して、「そして」は叙述の追加を強調すると言える。」と述べている。

平成23年度版中学校国語教科書(光村図書)の教材の分類比率を見ると、小説と随筆が71教材中10教材ずつで全体の約14%となっており、最も多い。そして、添加型の接続語の出現が最も多いのは小説であり、特に「それから」は全体で34の出現が認められるが、そのうちの31が小説の中で使用されている。また、「そして」も全87中34が小説での出現であり、教材分類の中では最も多い。小説や物語といったジャンルでは、ストーリーを進める上で、行為の順次性の強調や叙述の追加が必要であるため、これらの接続詞が多く使用されていると予想される。

3-2-2. 逆接型の接続詞「ところが」

教科書で6位(4.6%)である「ところが」はコーパスでは2083で21位(1.5%)であった。まずは、「ところが」の機能についてまとめておきたい。

北野(1989)⁴は、「ところが」の性質について次のように述べ、表7のようにまとめている。

「pところがq」において、後件qに対する話者関与性が高ければ高いほど不適格である。つまり、「pところがq」において、後件qに対する話者関与性の低いqでなければならない。そして、そのことを

³ 楊暁輝・馬場俊臣(2004)「接続詞「そして、それから、それに、そのうえ」の用法」『北海道教育大学紀要.人文科学・社会科学編』54(2), p30

⁴ 北野浩章(1989)「「しかし」と「ところが」:日本語の逆接系接続詞に関する一考察」『言語学研究』8巻, pp39-52

示す統語的・意味的特徴を、qが備えていなければならないのである。
 (中略)

- (32) 品質はあまりよくない。ところが、
 a. *値段は安い{だろう／かも知れない／に違いない／はずだ}。
 b. ?値段は安い {ようだ／みたいだ}。
 c. 値段は安い { Φ / そうだ／らしい}。
 (33) 彼はひどい風邪をひいた。ところが、
 a. *もうすっかりよくなった{だろう／かも知れない／はずだ}。
 b. ?もうすっかりよくなった {ようだ／みたいだ}。
 c. もうすっかりよくなった { Φ / そうだ／らしい}。

表7 北野(1989)による「ところが」の性質に関するまとめ

後件 q のモダリティ形式	「pところが q」の適格性
ダロウ、マイ、カモンレナイ、 ニチガイナイ、ハズダ	*
ヨウダ、ミタイダ、ラシイ	?
ソウダ、ラシイ	○

(例文の頭番号は引用文献のまま)

北野(1989)によれば、「ところが」は「しかし」よりも使用上の制限が大きいということになる。コーパスにおいて「しかし」に比べて「ところが」の方が多く見られたのはこれが関係していると考えられる。にも関わらず、教科書では多く使用されている理由は何だろうか。

表5、表6を見ると、教科書の方がコーパスに比べて逆接型の接続詞が多く出現していることに気づく。「しかし」「ところが」他にも「でも」「だが」「けれども」などが上位に入っている。柳澤(2010)⁵は、高等学校の国語教科書に収録された教材を例に挙げ、教科書に収録された評論の多くは逆説的な主張、あるいはショッキングな表現や事例をめぐって展開することを述べた上で、

評論はどのような結論でも主張できるのに、どうして逆説的な表現がこんなに多いのか。もっとも、これは評論一般ではなく、高校生の興味を引くための、教科書に特有の現象とも思える。しかし、評論と逆説との関わりは教科書教材に限ったことではない。(中略)逆説とは、通念(常識)に逆らう見解だから、自分の主張を逆説的に見せることは、主張に獨創性を与えることと同じ効果を持つ。主張の獨創性を納得させるという厄介な仕事を、逆説的な表現が肩代わりしてくれるのである。

と、評論と逆説表現の密接なつながりについて論じている。

筆者は柳澤の主張は評論に限定したことはないように思う。というのも、今回の調査で、中学校の国語教科書では論説や随筆において、他の接

⁵ 柳澤浩哉(2010)「評論は逆説を志向する」『国語科教育学はどうあるべきか』明治図書出版株式会社、p89

続語の分類よりも、逆接型が多く使用されていることがわかった。逆説的な表現には逆接型の接続語が使用される可能性が多くある。日本国語大辞典⁶によれば論説とは、「物事の非を論じ、主張を述べ、また解説すること。またその文章。」とあり、まさにこれは自分の考えを述べる上で、逆説的な表現を用いて主張に説得力を持たせる効果を持たせているのではないだろうか。一方、同じく日本国語大辞典⁷で随筆を調べると、「特定の形式を持たず、見聞、経験、感想などを筆にまかせて書き記した文章。」とあり、一見その人の主張などはなさそうに思える。しかし、随筆の中に全く筆者の主張が含まれないかという点、そうではない。筆者は自分が体験したり、見聞きしたりした事柄に対する感想などを自分なりに表現するのである。「ところが」には次のような性質もあることを浜田(1995)⁸が明らかにしている。なお、引用部分以前に浜田は前項をP、それを受けての後項をQとして論じている。

「トコロガQ」という発話を行う話し手は(Pの話し手が誰であるかに関わらず)聞き手の知識の内容をQとして提示するのである。言い換えると、トコロガにおけるPとQは、単にQが聞き手にとって予想外の情報であるばかりでなく、話し手がPとQの対比を十分承知したうえでQを提示するという意図性にその意味的効果の来源がある。

つまり、「ところが」は前項Pと後項Qを対比的に提示してその結果Qに意外性を持たせる効果がある上に、相手が知らない情報を持っていることを誇示する効果が感じられるということである。書き手は「ところが」が持つそのような効果も含めて、使用していると思われる。

そう考えると、「ところが」という接続詞を使用し、客観的な事実に基づく内容を逆説的な表現を用いて述べることで、より説得力のある、かつ読み手の興味を引くような主張をすることを教科書教材は実現しているのかもしれない。

3-2-3. 同列型の接続詞「したがって」

教科書にはあまり見られなかった「したがって」であるが、土肥(1992)⁹は、日本語の文学言語資料と音声資料の接続詞を分析し、順接「したがって」が自然科学分野の資料で多く用いられているという結果を得ている。身近なところでいうと、理科や数学のような論理展開で多く用いられているということである。それにしても、コーパスで5位に入るほど使用されている(4位と出現率の差は見られるが)接続詞が、国語教科書でわずか2

⁶ 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部『日本国語大辞典 第二版』第七巻、より「随筆」p806

⁷ 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部『日本国語大辞典 第二版』第十三巻、より「論説」p1217

⁸ 浜田麻里(1995)「トコロガとシカシ・デモなど一逆接接続詞の談話における機能一」宮島達夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法(下)』くろしお出版、pp584-588

⁹ 土肥治美(1992)「公的な談話と論理的な文章に表れた接続語句」『名古屋大学日本語学日本語教育論集』3号、pp36-49

例というのは少ないのではないだろうか。ちなみに、その2例と前項の一文を載せる。

(8) そして、外のコミュニティーから新しい「女性」が入ってくる。

したがってヨの場合は、ボツウの出身ではない可能性が高い。

(松沢哲郎著『文化を伝えるチンパンジー』／光村図書『国語2』, p281)

(9) 共成長説の場合、そばにある地球と月は同じような材料物質で形成される。したがって、同じような組成となるはずだ。

(小久保英一郎『月の起源を探る』／光村図書『国語3』 p45)

(8)も(9)も、これだけでは文の内容がよく理解できない。石黒他(2009)¹⁰は、「したがって」の機能領域について、「後項はほとんどの場合、一文」であるが、「先行文脈に機能領域が開いた接続詞であり、前項が長く」なることをコーパスの機能を用いて実証している。ここからわかるように、「したがって」は前項の一文だけでは意味を把握しにくい順接型の接続詞であるといえる。

以上のことから、また国語教科書の教材では小説や随筆の割合が高いことも踏まえると、国語教科書では「したがって」という接続語があまり使用されていない理由が説明できるのではないだろうか。

4. 研究の成果と課題

4-1. 研究の成果

本研究では、中学校国語教科書とコーパスにおける接続語調査を通して、その比較から中学校国語教科書の接続語使用に関する考察を行った。

まず、全体的に教科書は添加型の接続語が多く、なかでもコーパスではあまり見られなかった「それから」が多く使用されており、また小説で最も多く使用されていることから、「それから」の持つ「行為の順次性」に着目した。そして、国語教科書教材では小説が随筆と並んで最も多く収録されているために、コーパスとは異なる結果となったのではないかという結論を出した。

次に逆接型の接続詞「ところが」が国語教科書ではコーパスに比べ上位であったことに着目した。逆説的な表現の持つ効果と、同じく逆接型の接続語「しかし」との比較によって、「ところが」という接続語の使用にある程度の制限があること、また特有の「意外性」という機能に理由があるのではないかということが推察される。

そして、「したがって」という接続語が国語教科書でほとんど使用されない理由は、その扱いにくさと「したがって」という接続語が自然科学分野で多く使用されるが、国語教科書にはそういった分類の教材は扱われていないことが考えられる。

¹⁰ 石黒圭・阿保きみ枝・佐川祥子・中村紗弥子(2009)「接続詞の機能領域について」『言語文化』46, 一橋大学, p88-89

以上のことから、接続語使用の観点から見ると、世間一般の書き言葉を体系的に集めたコーパスと比較したとき、中学校国語教科書との間に若干の差異が見られることがわかった。

4-2. 今後の課題

本研究では、中学校国語教科書の接続語使用の傾向を見出すことを目的として調査及び比較を行った。そのため、教材の中でそれぞれの接続語がどのように使用されているかを具体的に見ていくことができなかった。今後の課題としては、今回の結果を踏まえてそれが国語科教育にどう生かされるか、実際に教壇に立った時に接続語についてどういう点に留意して指導すればよいか考察するところにあるだろう。教材自体の分析もそこに生かされると思われる。

そして今回は対象が教科書教材ということで、主に「読む」活動に焦点を当てて研究を進めたが、接続語が重視されるのは「書く」活動でも同様である。子どもたちの「書く」活動において、国語教科書に使用される接続語が何か影響を与えるのかという点も今後の課題として、研究していきたいと思う。

参考・引用文献

書籍・論文等

- ・石黒圭・阿保きみ枝・佐川祥予・中村紗弥子(2009)「接続詞の機能領域について」『言語文化』46, 一橋大学, pp79-94
- ・市川孝(1978)『国語教育のための文章論概説』教育出版
- ・北野浩章(1989)「「しかし」と「ところが」：日本語の逆接系接続詞に関する一考察」『言語学研究』8巻, 京都大学, pp39-52
- ・小松敬次郎(1996)「『言語事項』の学習指導実践への視点：接続詞の性質と機能のとらえ方を中心に」『年報いわみざわ：初等教育・教師教育研究』17, 北海道教育大学, pp57-68
- ・土肥治美(1992)「公的な談話と論理的文章に現れた接続語句」『名古屋大学日本語学科日本語教育論集』3号 pp35-49
- ・仲俣尚己(2011)「選択を表す接続詞「または」「あるいは」「もしくは」「ないし」「それとも」の使い分け」『実践国文学』80, 実践女子大学, pp247-229
- ・馬場俊臣(2003)「小学校国語教科書の接続詞—平成十四年度 M 社版の調査結果—」『札幌国語研究』8巻, 北海道教育大学国語国文学会・札幌, pp13-22
- ・馬場俊臣(2007)「国語教育における接続詞指導・習得に関する研究文献とその概要」『札幌国語研究』10, 北海道教育大学 pp1-25
- ・浜田麻里(1995)「トコロガとシカシ・デモなど—逆接接続詞の談話における機能—」宮島達夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法(下)』くろしお出版, pp584-592
- ・浜田麻里(2006)「並べたてる接続詞をめぐって—「あるいは」「また」をてがかりに—」益岡隆志・野田尚文・森山卓郎(編)『日本語文法の新地平3 複文・談話編』くろしお出版, pp169-185
- ・森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店

- ・柳澤浩哉(2010)「評論は逆説を志向する」望月善次(編)『国語科教育学はどうあるべきか』明治図書出版株式会社, pp87-89
- ・山室和也(2006)「中学校における文法指導に対する意識についての調査・研究～接続語の取扱いを中心に～」『全国国語教育学会発表要旨集』111, pp75-78
- ・山室和也(2008)『文法教育における構文的内容の取り扱いの研究』溪水社, pp108-127
- ・楊曉輝・馬場俊臣(2004)「接続詞「そして、それから、それに、そのうえ」の用法」『北海道教育大学紀要.人文科学・社会科学編』54(2), pp27-42

教科書・学習指導要領解説

- ・光村図書出版株式会社『国語1』光村図書
- ・光村図書出版株式会社『国語2』光村図書
- ・光村図書出版株式会社『国語3』光村図書
- ・文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋出版社

辞典

- ・日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部『日本国語大辞典 第二版』第七巻, より「随筆」(p806)
- ・日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部『日本国語大辞典 第二版』第十三巻, より「論説」(p1217)

(はやし まなみ 佐久市立野沢中学校)